

Temporal trends and geographical disparities in comprehensive stroke centre capabilities in Japan from 2010 to 2018

黒木, 愛

<https://hdl.handle.net/2324/4784442>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :

権利関係 : (c) Author(s) (or their employer(s) 2020. Re-use permitted under CC BY-NC

(別紙様式2)

氏名	黒木 愛
論文名	Temporal trends and geographical disparities in comprehensive stroke centre capabilities in Japan from 2010 to 2018
論文調査委員	主査 九州大学 教授 磯部 紀子 副査 九州大学 教授 二宮 利治 副査 九州大学 教授 馬場園 明

論文審査の結果の要旨

申請者らは、急性期脳卒中治療を研究する「J-ASPECT study」が2010年より4年に1回実施している脳卒中の救急医療体制の現状を把握するための施設調査アンケートデータを用い、「包括的脳卒中センター(comprehensive stroke center : CSC)の要件に関するスコアであるCSC scoreが、経年的に改善するのか、その推移に地域格差があるのか、どのような病院関連因子がCSC scoreの改善に関与しているか、について明らかにするため解析検討を行った。2010年、2014年、2018年と連続回答した323病院においてCSC scoreは経時的に改善傾向にあり、特にスコアの改善が顕著であったのは、血管内治療実施体制の充実や多職種ケアであった。また、ベースラインのCSC scoreが低いこと、病床数が500床以上の病床数であること、脳卒中専門医師数がCSC scoreの改善に関与していることを見出した。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、概ね適切な回答を得た。なお本論文は共著者多数であるが、予備調査の結果、申請者が主導的役割を果たしていることを確認した。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士(医学)の学位に値すると認める。